

## 懇話会、教育委員会会議、教育文化委員会における主な意見

※修正等に「○」をつけている箇所は素案修正予定の内容、「－」は修正予定がない内容です。

	意見等	対応(案)	修正等	担当課
1	・全国平均はあくまで相場なので、極力具体的な数値を、もしくは全国平均以上と併記させては。	全国平均の推移等、見通せない部分も大きいことから、具体的な数値の設定はせず、このまま全国平均以上という表現としたいと思います。	－	企画調整課
2	「白マル、二重マル、黒ボチが多過ぎる」というふうに感じました。	これまでのプランに合わせた形をとっており、本市の他の計画も、同様の表記を使用しています。	－	企画調整課
3	・指標について、教育委員会としては、全ての教科を平均的に上げたいのか、児童生徒の得意なものを重点的に伸ばしていきたいのか。	学習指導要領に定められた教科の目標、内容等を踏まえ、児童生徒の資質・能力を育む取り組みを行っています。	－	指導第一課
4	・分かりにくいので、和暦と西暦の併記をお願いしたい。	併記するように修正しました。	○	企画調整課
5	・「新たな価値創造に挑戦する子ども」と、具体的なミッション、アクションと結びつかない。	今回のプランでは基本的に各教科は個別に出してはいませんが、例えば英語教育の充実も個別に出し、また、教育の情報化推進も盛り込んでおり、こういったものを通じて、新たな価値創造ができる人材を育てていきたいと考えています。	－	企画調整課
6	・新しい教育大綱ができたと思うが、そのことにも触れる必要があるのでは。	P6に記載いたしました。	○	企画調整課
7	・「目指す子どもの姿」のうち、「新たな価値創造に挑戦する子ども」は、新しい表現でイメージがしにくい。具体的にはどのような子どもか。	社会が大きく変化し、これまでの仕事がなくなくなるかもしれない中で、新たな価値創造に挑戦する、将来を担う子どもになってほしいということで、このように記載しています。	－	企画調整課
8	・「目指す子どもの姿」の順番について、「自立し、思いやりの心をもつ子ども」か「新たな価値創造に挑戦する子ども」を前にした方がよいのでは。概要版では、「目指す子どもの姿」の順番が逆になっている。序列はつけていないと思うが、市民の分かりやすさという点から、見せ方として統一した方がよい。	順位付けはしていません。ただし、前教育プランとの関係も踏まえて、表現方法等を変更します。	○	企画調整課
9	・ビジョンに「本市に誇りを持つ子ども（シビックプライド）」があるのは、教育大綱に沿っているのだと思うが、違和感がある。施策の中の項目の一つにしてもよいのでは。個人のことよりも、市のことを重んじてということ強調するために書いているように感じる。	「本市に誇りを持つ子ども（シビックプライド）」は、教育大綱に沿ったもので、その中にこのような文言が入っています。本市に誇りを持つことが、個人を大事にしないということではなく、当然個人を大事にしながら、本市に貢献するような人材に育ててほしいという思いからこのような文言にしています。そのような観点から地域教材資料集の作成などの施策を挙げており、強制的に本市を好きになるような施策を目指しているわけではありません。	－	企画調整課
10	・(ミッション3)P22の「防災・安全教育」について、大綱にもある文言なので難しいかもしれないが、現在は「防災・減災」が主流であり、そのような表現の方がよいのでは。	「防災・減災教育」に修正いたします。	○	指導第二課
11	・このプランには、関連計画として男女共同参画基本計画が全く載っていない。第4次男女共同参画基本計画(素案)との整合性などはどうなっているか。	男女共同参画基本計画との関係性については、P27の例示に追加します。	○	企画調整課

12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今でも外国人が差別を受けることは多いと思うが、29ページ、SDGsの視点を踏まえた本市学校教育のイメージの「人権」や「国際理解」などに、「多様性」や「包摂的な」等を入れてはどうか。</li> </ul>	素案P28(1)の「2030年の国際目標で、」の後に、「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための、17の国際目標です。」を追加します。	○	企画調整課
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsはこれからの、プランを進めていく上で、それが手段であったり、目標であったりするので、その辺を整理してはどうか。</li> </ul>	改めて、図解の表現も含め、しっかり分かるような表現に修正しました。	○	指導第一課
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(本計画とSDGsの関係)P29に目標2番(飢餓をゼロに)を入れたら、P28と整合性が図れるのでは。</li> </ul>	国際理解に入れることとしました。	○	企画調整課
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・29ページ下の、SDGsの視点に立った教育活動で育成する資質・能力の中に、「批判的に考える力」とあるが、批判だけして粗探ししても課題解決にはつながらないので、「本質を見抜く力」などの方がよいのでは。</li> </ul>	「本質を見抜く力」に修正します。	○	指導第一課
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40ページ「学校における健やかな体の育成」の「健康の保持」のところですが、平成28年の4月に、がん教育のガイドラインができて、来年から始まります。それを新しい教育プランには、いるのではないか。</li> </ul>	新学習指導要領においては、がんについて取り扱うことになっており、また、「がん教育」に限らず、その他にも多くの健康に関わる課題や疾病もあるため、「学習指導要領に基づき、」と「健康な生活と疾病の予防について自ら関心を持てるようにし」という文言を追加します。	○	指導第一課
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(施策3)P43,45に「自己肯定感」とあるが、「社会貢献意識の向上」がよいのでは。</li> </ul>	意見のとおり「社会貢献意識の向上」に修正します。	○	企画調整課
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(施策7)P61の弁護士とP62のスクールロイヤーの違いは。</li> </ul>	P61は広義の意味での弁護士を指し、P62の「スクールロイヤー」は、児童生徒の指導上の諸問題などについて、早期に問題の解決を図るために、学校・幼稚園からの相談に対して法的な観点から助言を行う弁護士を指しています。	—	指導第二課
19	61ページに、「不登校を含む長期欠席児童生徒に対して」というところから始めて、「実践活動事例集等を参考にすることで各事例に対し」、そのあと「その原因を的確に把握し」というふうになっているが、この「その原因を的確に把握し」という言葉を削除していただくか、あるいは「本人理解を深め」というような言葉に変えてほしい。	P61の今後の方向性について、「不登校を含む長期欠席児童生徒に対して、学校長のリーダーシップの下、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家や少年支援室の関係機関とも連携し、児童虐待の視点も含めた組織的な取組みを推進することで、児童生徒が抱える課題の解決を図ります。また、実践活動事例集等を参考にすることで各事例に対し、きめ細かな対応を行います。」に修正します。	○	指導第二課
20	虐待への対応との関連で、長期欠席の「原因を究明する」というところは教育の中で、「虐待等を見落とさないようにするという感覚」という意味での言葉を入れたほうがいい。			指導二課
21	P.62の「スクールロイヤーを活用する」というのは、「学校」が主語で、そのあとの「学校が抱える諸課題に対し」というところから、「法的助言を行う」というのは、「スクールロイヤー」が主語になっているのか。	「スクールロイヤーを活用し、学校が抱える諸課題に対し中立的な視点から法的助言を受けられる体制を構築することで、問題の早期解決を図り、学校が子どもに適切な教育を施すことができる環境を整備します。」に修正します。	○	指導第二課
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(施策10)P77の新しい重点指標「スクールソーシャルワーカーによる支援対象者数に対する解決・好転した割合」の意味は。</li> </ul>	支援対象者に対して、効果があった、解消した割合であり、残りは継続的に取り組んでいるものです。	—	指導第二課

23	<p>• これからの国際的な視野という観点から、子どもの権利条約、最善の利益等、子どもの権利に関する文言をどこかに入れていただきたい。</p>	<p>子どもの権利については、関連する計画である「北九州市子どもプラン」（第2次・H27-31年度）において、子どもの権利の擁護、子どもの最善の利益等が記載され、本市学校教育にも適用されているものです。よって、P. 72の現状に「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」に関する記述を追加しました。</p>	○	企画調整課
24	<p>• (施策10)P77の新しい重点指標「スクールソーシャルワーカーによる支援対象者数に対する解決・好転した割合」について、スクールソーシャルワーカーだけのようにとれるので、スクールカウンセラーなど多職種と連携してもこの数字であるというふうな表現にしては。</p>	<p>ご指摘のとおり、多職種との連携も考えられることから、「等」を入れることとします。</p>	○	企画調整課
25	<p>• (施策10)P77の参考指標「生活保護世帯及びひとり親家庭の子どもの高等学校等進学率」については、非常に重要なものなので、目標は100%がよいのでは。</p>	<p>一般の高校進学率が100%に届いていないことや、子どもによっては、他の目標をもっていることもあるので、100%は難しいと考えます。</p>	-	企画調整課